

2022年度 下期に向けて

株式会社フジクラ
取締役社長CEO 岡田 直樹

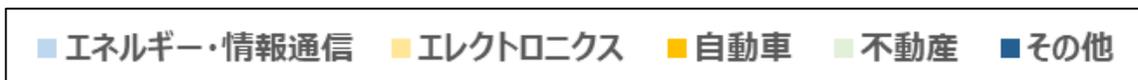
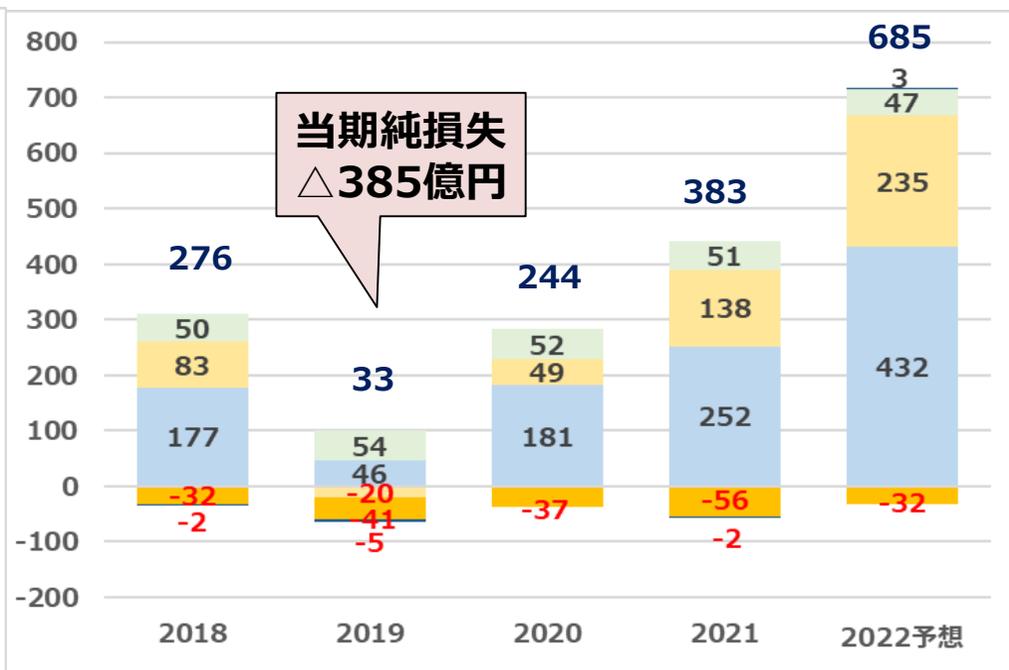
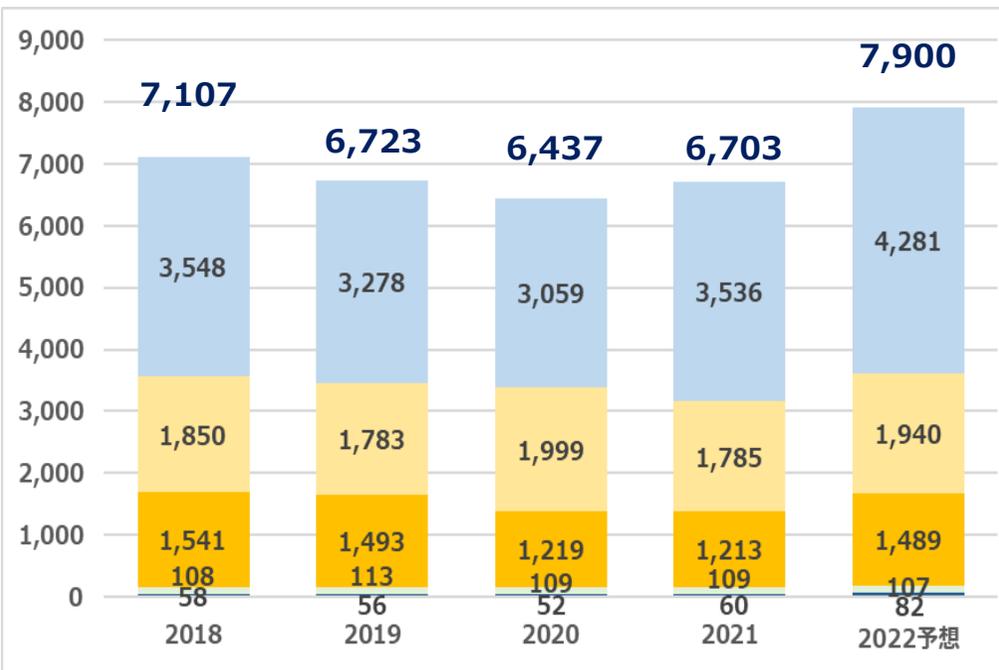
2022年11月9日

1. 持続的成長フェーズへ

業績推移 ～事業再生フェーズから持続的成長フェーズへ～

【売上推移(億円)】

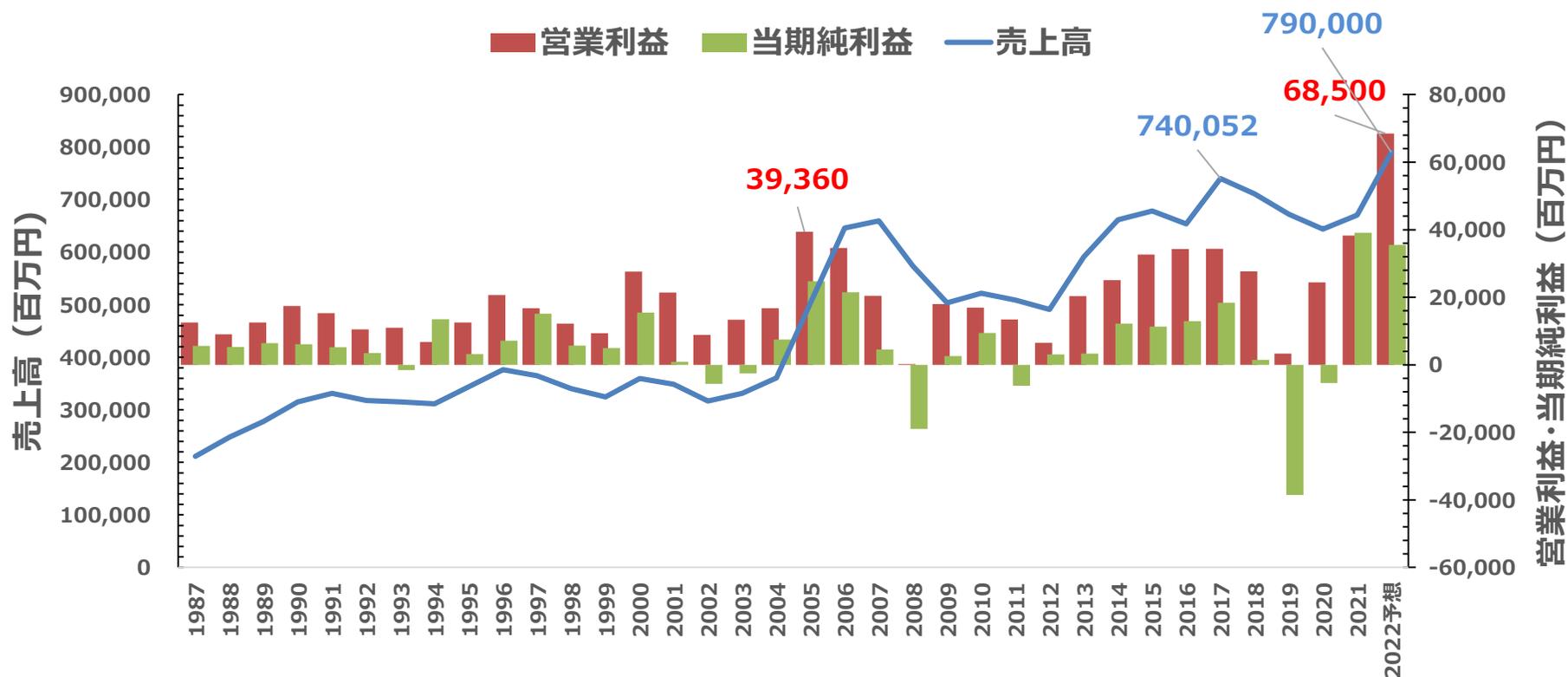
【営利推移(億円)】



■ 2021年度の業績は事業再生フェーズに入る前のレベルに回復
⇒ 2022年度から持続的成長フェーズへ。

業績推移～過去最高の売上・営業利益を目指す～

フジクラ業績推移（1987～2022年度）

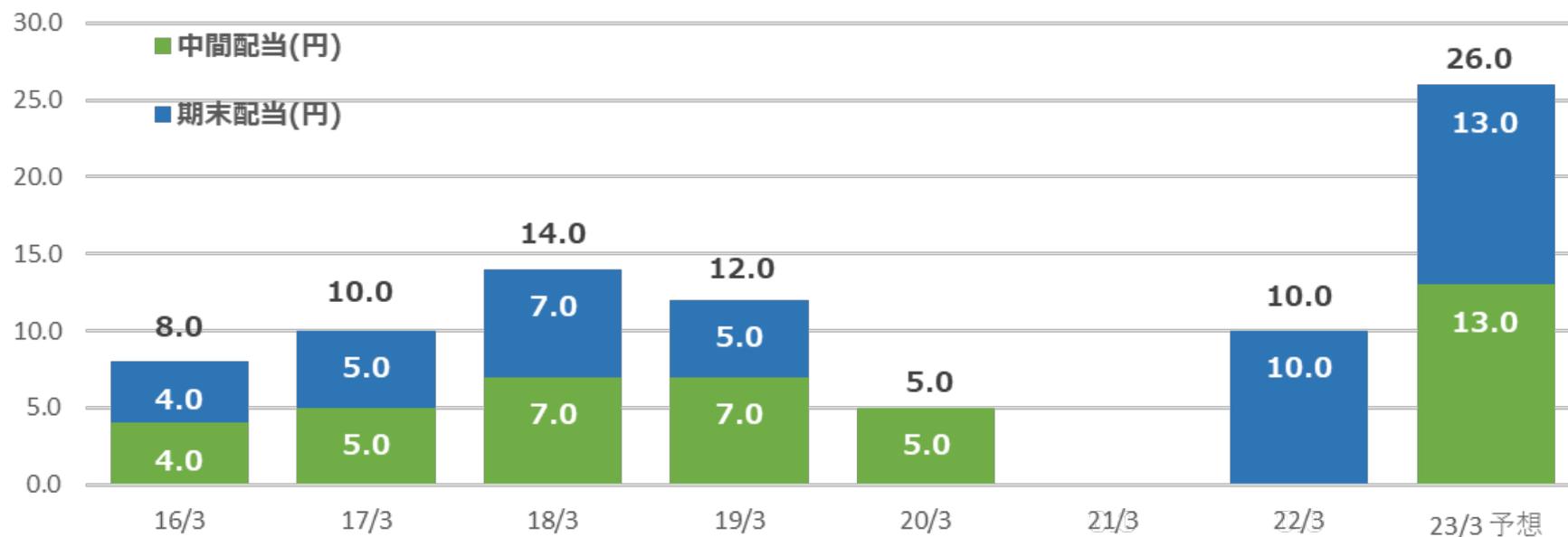


**今回の上方修正値により売上、営業利益ともに過去最高の計画
構造改革を果たした今、今年度計画をやり遂げ
成長事業の収益性をさらに高め、持続的成長を目指していく！**

配当予想の修正

2022年度 配当予想

上期において事業が堅調に推移、下期も2022年8月5日時点の予想を上回ることが見込まれるため、中間配当の実施と期末配当の見直しを行い、**年間配当予想を10円増配し、1株当たり26円とした**



外部環境に対する認識

外部環境	足下の状況と今後の見通し
世界経済後退・インフレ懸念	<ul style="list-style-type: none"> 消費者購買意欲ならびに企業の投資意欲減退を懸念
為替・金利動向	<ul style="list-style-type: none"> 円安は輸出事業(主に情通・エレクトロニクス)にとって恩恵。一方で、原材料費、物流費にはマイナス影響
巨大IT企業の成長鈍化	<ul style="list-style-type: none"> 在庫調整の懸念
新型コロナ感染拡大	<ul style="list-style-type: none"> 巣ごもり需要は一服したとみる 収束傾向。中国のゼロコロナ政策は継続するものとして注視していく
地政学リスクの高まり -米中問題、ウクライナ等	<ul style="list-style-type: none"> インフレ加速やサプライチェーンへの影響を懸念 一方、ブロック経済化による欧米での製品需要取り込みの機会も
電力不足	<ul style="list-style-type: none"> 電力不足に起因する顧客及び自社工場への稼働影響を懸念
半導体不足	<ul style="list-style-type: none"> 自動車、電子機器の顧客での生産への影響が継続
ヘリウム不足	<ul style="list-style-type: none"> 光ファイバ/ケーブルに影響。引き続き調達量確保、使用量削減、代替ガスへの取り組みを進める 高温超電導線材の採用加速には追い風

➤ 外部環境の変化に迅速に対応し、影響を最小限に抑えていく。

エネルギー事業構造改革

エネルギー関連事業においては、以前より一連の事業構造改革を実施してきた

- ✓ 国内配電ケーブル事業のグループ会社への統合
- ✓ 海外の電力ケーブル生産拠点の閉鎖
- ✓ 海外EPC(設計・調達・建設)事業の撤退



- ✓ 2022年10月1日、当社に残る送電・メタルケーブル事業を（株）フジクラエナジーシステムズに分社化
身軽で効率的な体制をもって自立自営を目指していく

長らく続いたエネルギー事業構造改革の大きな節目となる

欧州 SWR/WTC事業拡大

「技術のフジクラ」として革新的な新製品による市場開拓

空気圧送型 Air Blown-WTC

- ✓ 世界初のリボンファイバによるAir Blownケーブル開発に成功
- ✓ 英国BT/Openreach社にて採用。同社としても初のリボンファイバ導入となった
- ✓ BT以外の英国キャリアでの採用も進む

高難燃・低発煙 LSZH-WTC

※LSZH=Low Smoke
Zero Halogen

- ✓ 世界で最も厳しい規格であるCPR(欧州建設資材規制)の最高レベルをクリア
- ✓ 従来の光ケーブルでは成し得ない仕様を実現し、英国鉄道及びロンドン地下鉄でも採用が決定。2024年末までに2,000km以上を敷設予定

英国での実績を基に、欧州でのデファクトスタンダード化とさらなる拡販を目指す

戦略的商品であるSWR/WTCのグローバル展開

欧米展開は順調に進む 政治経済情勢を注視しつつ精力的にビジネス拡大していく

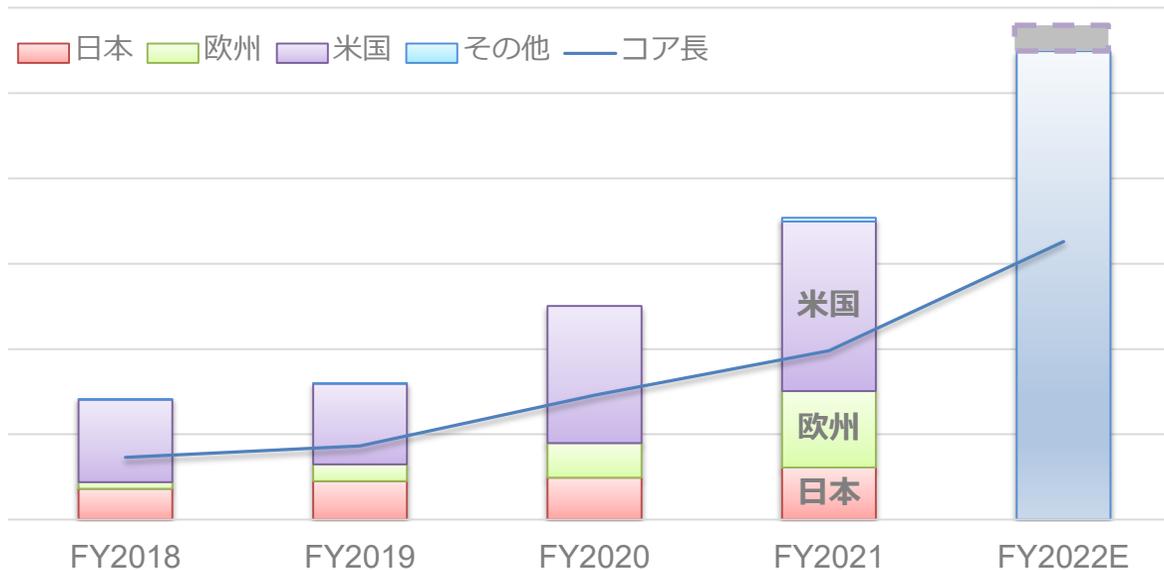
拡大に向け各拠点整備

- ・技術・製品開発：日本
- ・ケーブル製造：日米欧
- ・マーケティング：日米欧 + α

※HSDC向けはグローバルに展開

※FTTH向けは新市場、新顧客を開拓

地域別SWR/WTC売上推移



He不足による
供給制約影響

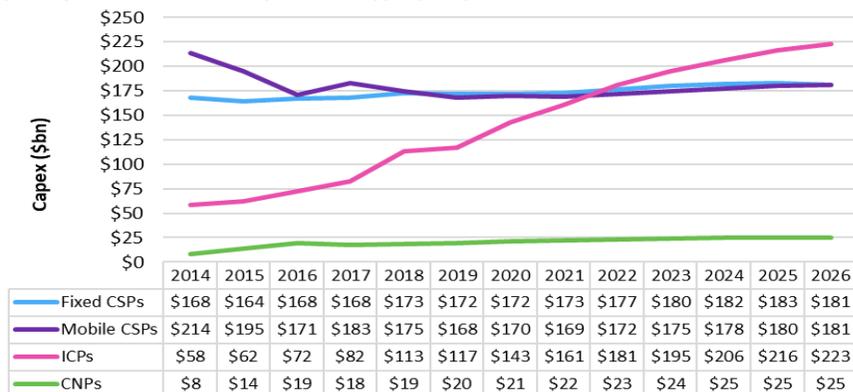
佐倉事業所内にSWR工場新設を決定

新工場 建設概要

- 工場立地：当社佐倉事業所
- 稼働開始：2025年(予定)
- 投資額：100億円弱
- 本投資によるSWR増産分は2022年度製造量対比30%程度に相当する見込み
- DXやGXを採り入れ、省人・省エネを進めるとともに生産効率を高める
- 世界的に需要が高まる高度情報インフラの構築に寄与していく



Capex by communications provider type (\$bn)



Source: Omdia

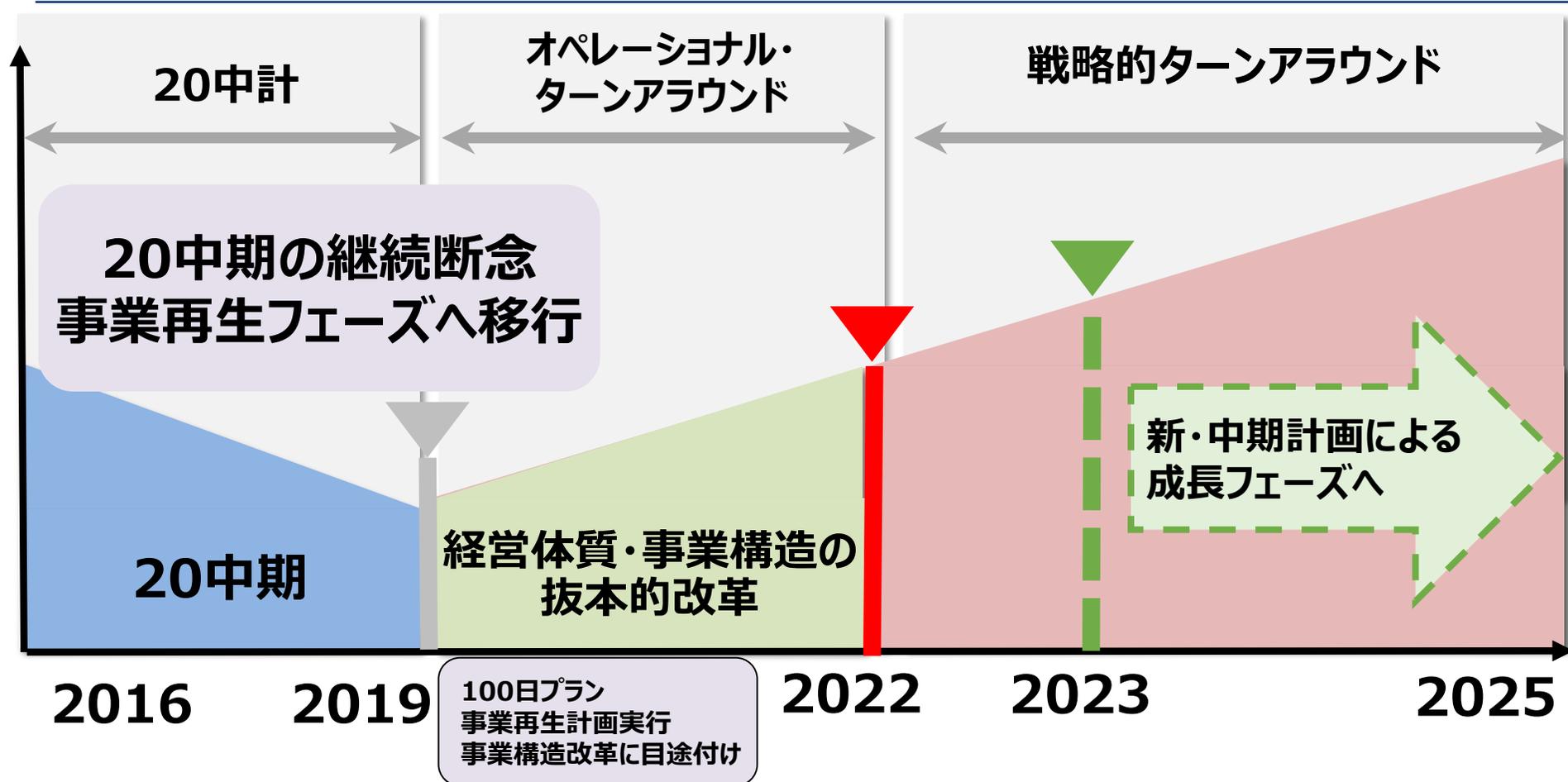
© 2021 Omdia

CSP…通信サービスプロバイダ（電話会社、通信事業者）
 ICP…インターネット・コンテンツ・プロバイダ（OTT、クラウド、デジタルメディア、ハイパースケール）
 CNP…キャリア・ニュートラル・プロバイダ（タワー事業者、マルチテナントデータセンター）

SWR/WTCは今後も拡大が見込める

2. 次期中期計画に向けて

成長フェーズへの転換・次期中期計画策定



- 2022年4月より成長フェーズへと転換、中期計画・成長戦略作りこみ
- 2023年5月に新中計を公表。新中計の下、成長フェーズを加速させる
今後も筋肉質な企業体の追及は継続

次期中期計画で目指す姿

- ✓ “つなぐテクノロジー” の分野で、「技術のフジクラ」による顧客価値創造と社会貢献を目指す。
- ✓ 事業ポートフォリオマネジメントにより、高収益企業を目指す。
- ✓ 光と無線とその先の光電融合、超電導の基盤技術で未来を創造する。

情報通信
事業部門

「光配線ソリューションビジネスの強化とグローバルでの新市場、新顧客開拓を目指す」「将来的にはIOWN(※1)実現にも貢献」
(※1 IOWN=Innovative Optical and Wireless Network)

電子部品・コネクタ
事業部門

「フジクラ技術が生きるニッチ高マージンビジネスの強化と新市場・新顧客の開拓を目指す」

自動車
事業部門

「CASEといった技術革新期において、フジクラ技術が生きるビジネスとのシナジーを目指す」

次期中期計画で目指す姿

✓ 自立自営による意思決定の迅速化と事業の効率化・安定化

フジクラ・
ダイヤケーブル
(FDC)

「産業電線市場において、デジタルものづくりによる収益性向上を通じ、業界での存在感を一層高める」

フジクラ・プリント
サーキット
(FPCL)

「FPC市場において、高度な配線技術と進化した生産性により、稼ぐ力の回復を図る」

フジクラエナジー
システムズ
(FES)

「特殊電線・送電線市場において、高付加価値品種、高採算品種での競争力を高め、自立した経営を軌道に乗せる」

DX・GXへの取組み

- DX(デジタルトランスフォーメーション)・GX(グリーントランスフォーメーション)ともに今後の持続的成長フェーズにおける競争力の源泉と考え、経営資源を適切に投下していく
- それぞれ社内にプロジェクトチームを発足し活動

DX

DX(デジタルトランスフォーメーション)における活動指針

- ✓ 業務プロセスの効率化
- ✓ データドリブン経営
- ✓ AIを活用したモノづくり革新
- ✓ データを活用した新たなビジネスモデルの探索

GX

GX(グリーントランスフォーメーション)における活動指針

- ✓ 創エネ：太陽光発電
- ✓ 省エネ：製造技術革新による電力使用量の削減
- ✓ 購エネ：クリーンエネルギーの購入

CEOとしてのコミットメント

- “つなぐ”テクノロジーを通じ、「技術のフジクラ」として顧客の価値創造と社会に貢献することが当社の「Purpose」、次期中計に向けた各事業の方向性は社会課題の解決に合致、事業拡大を通じ社会貢献を果たす
- 今年度は2023年度からはじまる中期計画に向け、足下を固める重要な一年。外部環境に不安定さがみられるが、ステークホルダーの期待に応えるべく、過去最高となる売上、営業利益計画を達成し、次期中期計画につなげるべくCEOとして力を尽くしていきたい



注記：本資料は22年度におけるフジクラの経営方針（意思）をまとめています。22年度を含む先の年度の売上・利益等については、直近状況を織り込んだ市場判断、投入に関するフジクラの意思を定量化していますが、将来時点で事業環境の変化等により変わることがあります。